

令和6年度目標達成状況（多気町）（2月）

1. 夢や志の実現をめざし、自らの可能性を追求し、新たな時代を「生き抜く」力を育む教育の推進

（1）「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」の育成

項 目	到達度	取組内容	結 果
① 確かな学力を身に付け、自ら学ぼうとする子ども			
ア 子ども一人ひとりの状況を的確に把握し、どの子どもも安心して学べる仲間づくりを進めます。	3	○安心して学べる学級集団づくり ・学習規律の定着 ・UDの授業づくり ・わからないと言える仲間づくり ・ペア、グループ学習の活用 ○QU（学級満足度）調査、児童生徒アンケート、教育相談の実施 ○SC、SSW、関係機関との連携 ・ケース会議の定期開催	・普段の授業や教育活動の観察、QU等も参考にしながら、全職員が児童・生徒の実態について情報共有し、生活背景も含めた子ども理解に努めることができた。 ・ケース会議等を通して、支援の在り方について共通理解を持ち、指導にあたることができた。また、スクールカウンセラーやこども課、児童相談所等とも連携して、組織的に改善に向けて取り組むことができた。
イ 多気町学力向上アクションプログラム（改訂版）をもとに、学力向上に努めます。		○定量的、定性的データに基づく、学力・学習状況の把握と改善 ・全国学力・学習状況調査（4月） ・みえスタディチェック（4月、1月） ・ベネッセ総合学力調査（12月） →自校採点、結果分析、授業改善、補充学習、検証のサイクル ○多気町学力向上推進委員会開催（年3回）	・校内研修計画にそって、全員体制での校内採点、結果分析を行い、強み、弱みを把握し、授業改善に努めた。 ・全国学力・学習状況調査の結果は、小学校が全ての教科において全国の平均正答率を下回り、中学校においては、全ての教科において上回る結果であった。 ・町学力向上委員会では、各校での「できなかったことをできるようにする取組」を中心に交流し、小中、小小の連携を深めることができた。
ウ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を進めます。		○「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした研修テーマの設定および授業研究 ・主体的に表現し、伝え合いたくなる授業づくり～相手や目的を意識して～（相可小）	・授業研究を計画的に行い、互いに学び合うことを通じて、学校全体の授業力の向上に取り組むことができた。 ・授業公開期間やミニ研修会な

	・思いや考えを表現できる子どもの育成 ～算数科・国語科のふりかえりを通して～ (佐奈小) ・「自ら考え、学び合う」授業の創造 ～「個」から全体へ 学びをどうつなぎ、 どう深めるか～ (津田小) ・「読解力」を育てるための授業の工夫 ～算数科の授業を中心に～ (外城田小) ・子どもの心に火をつける授業づくり ～算数科を軸とした「きき合う」活動を中 心として～ (勢和小) ・未来を切り拓く創造性の育成 ～「ふるさと学習」を軸とした探究活動を通 して～ (勢和中) ○指導主事の派遣 (各校) ＜R6 年度重点校＞ ・相可小 ・多気中 ・勢和中 ※週一回程度 (主に T2 として)	ど教員が自主的に授業づくり、 学級づくりについて学び合う 機会を設けることができた。 ・指導主事が継続的に授業に 参加することを通じて、校内研 修会での学びの具現化を図り、 教員一人ひとりの指導力向上 につなげることができた。
エ 少人数授業 (習熟度 別指導・ティームティ ーミング) などを通し て、個に応じたきめ細 かな指導を展開しま す。	○「わかる授業推進事業」の活用 ・勢和中 (1、2 年：数学, 3 年： 英語) ○きめ細やかな少人数指導の実践	・(勢和中) 県の「わかる授業推進 事業」を活用し中学校では 1・ 2 年生の数学科において習熟 度別授業、3 年生の英語科にお いて T.T による少人数指導に 取り組んだ。少人数で落ち着いた 雰囲気の中、子どもの実態に 合わせた学習を丁寧に進める ことができた。 ・小規模校の特性を強みとし、子 ども一人ひとりに応じた指導 を充実させることで、基礎的・ 基本的な学力の向上を図ること ができた。
オ 第四次子ども読書 活動推進計画をもと に、図書館の読書及び 学習・情報センターと しての機能を高め、子 どもたちの読書活動 を推進します。	○朝読の時間の確保 ○学校図書館利用・経営の工夫 ・授業における調べ学習の場づくり ・読み聞かせ ・ブックトーク、ビブリオバトル等	・読書習慣を身に付ける取組と して、毎日の朝読の実施を 1 年 間通して実施できた。 ・児童生徒の読書への関心を高 めるため、ブックトークや朝読 での読み聞かせ、ビブリオバト ル等の企画を計画的に進める ことができた。

② 人権を尊重する心豊かな子ども

ア 多気町人権教育カリキュラムをもとに、教育活動全体を通じて人権教育を進め、人権尊重の意識や実践力を育みます。	3	○多気町小中連携人権教育カリキュラムに沿った人権教育の実施 ・フォーラム実行委員会(年間7回) ・フォーラム活動 ○人権教育授業参観・人権講演会の実施	・人権教育カリキュラムをもとに人権学習を進めるとともに、日常の学校生活の中で起こるよかったことや課題をその都度とりあげ、考え合う機会をもつことにより、人権意識の育成を図った。
イ 「特別の教科 道徳」の授業を中心として道徳教育の充実を図るとともに、地域と連携した取り組みを進め、児童生徒の道徳性を育みます。		○「考え議論する道徳」の実践 ○学校教育活動全体を通しての道徳教育の実践	・子どもたちの実態に合わせながら、より「考え、議論する」授業となるよう指導内容を工夫し、展開することができた。

③ 心身ともに健やかな子ども

ア 家庭との連携を深め、基本的な生活習慣の確立及び健康の保持、体力の向上に努めます。	3	○基本的な生活習慣確立に向けての指導 ・あいさつ、廊下歩行、時間意識など生活指導 ・清掃、給食指導 ○アンケート等による実態把握・実践的な態度の育成 ・生活アンケート ・すこやかカード ・ファミリーウィーク、アウトメディア ・弁当の日 ○心身の健康増進に向けた取組 ・発育測定、健康診断、新体力テストの実施 ・感染症対策	・日常の子どもとのふれあい、教職員間や保護者との連絡・相談、QU調査、生活アンケート、すこやかカード等により子ども一人ひとりの状況を多面的に把握し、指導・支援を行うことができた。 ・体力テストを実施することで、児童生徒の実態把握をし、授業改善に役立てた。
イ 食に関する知識と食を選択する力、健全な食生活を実践する力を育む食育を推進します。		○食に関する指導の全体計画、年間指導計画に基づいた食教育の実践	・食教育に関する授業を栄養教諭と連携し、計画どおりに実施することができた。
ウ 日常生活に生きる安全教育の充実に努めます。		○交通安全教室の実施 ○避難訓練、防災学習の実施	・地域の機関「とまとーず」と連携し、交通安全教育の充実に努めることができた。 ・計画的に避難訓練や保護者への引き渡し訓練を実施し、「防災ノート」を活用した防災学習

			にも取り組み、防災に対する意識を高めることができた。
エ 学校給食の充実に努めます。		○地場産物の活用 ○生産者・調理委託業者等、関係機関との連携	・地場産物の活用をすすめるため、生産者や関係機関と連携を取り、新たな食材を学校給食に取り入れた。 ・地場産物を活用したり、学校と連携したメニュー開発を行ったりするため、調理委託業者と連携して調理実習を行った。 ・地場産物を扱うことで、食べ物に対する生徒の関心も高めることができた。

<改善課題>

- ・学国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、ベネッセ総合学力調査等の各種調査においては、小学4, 6年生については学力の定着にやや課題がみられるものの、他学年についての平均正答率は、全国（県）の値と同等か上回る結果であった。調査結果から課題として表れたものについては、「できなかったこと」を「できる」ようにするための取り組みが各校で進められており、町内において、各校における学力向上アクションプログラムが確実に進められている結果が出ている。一方で基礎学力が身につけていない児童生徒の底上げがまだまだ課題として残る。個に応じた学習課題を設定するなど、レベルに応じた対応が必要になる。今後についても子どもたち一人ひとりが、主体的に学び、「できた」「わかった」の実感がわく授業づくりの研究を推進していく。
- ・人を思いやる心や声掛け、そして相手の気持ちを思いながら自分を表現できる児童生徒を継続的に育成していきたい。来年度は、県の「人権アライメント事業」を多気中学校区で受けることが決まっている。また「明日もまた行きたい学校」をテーマに掲げ、小学校統合に向けての取組も始まる。この事業の流れを活用しながら、今後も人権学習やフォーラム活動などを通して、児童生徒が「自分を語る」「自分の気持ちが出せる」機会を作り出し、誰もが安心して通える学校をめざしていきたい。

(2) 他者と協働して豊かな未来を創造する力の育成

項 目	到達度	取組内容	結 果
① 社会の変化に対応できる子ども			
ア 発達段階に応じたキャリア教育を推進します。	3	○キャリア・パスポートの作成 ○各教科による出会い学習の推進 ○「合同授業」「交流授業」 ○進路学習の実践（中学校） （1年：職業調べ、2年：職業体験・上級学校調べ、3年：進路実現に向けた実践）	・生活科、総合的な学習の時間や社会科、道徳科、特別活動の中で、児童生徒の発達段階に応じて、自分の生き方や職業、働くこと等について学習を進めることができた。 ・キャリア・パスポートや学習ファイルに考えたこと等の記録を残し、必要に応じて振り返ることで、一人ひとりの生き方観、職業観、勤労観の育成を進めることができた。
イ 地域や学校の実態や特色を生かした環境教育を推進します。		○地域の素材を活用した体験学習の実施 （相可小）米、大豆、佐奈川、松阪牛、伊勢街道等 （佐奈小）米、みかん、松阪牛、アゼオトギリ等 （津田小）米、伊勢芋、自然体験学習等 （外城田小）米、柿、ぶどう、水生生物調査等 （勢和小）米、大豆、立梅用水、水生生物調査等 （勢和中）小麦、アジサイ祭り、各種ボランティア活動等	・発達段階に応じて、各教科で環境について系統的な学習を進めるとともに、地域の里山や校区巡り、近隣の環境問題に関わる見学を行い、環境問題への知識や実践力の育成を進めることができた。 ・地域で活動する人と出会ったり、企業の協力を得たりして、環境教育に関わる学習や体験活動を実施し、地域の自然や環境問題に対する意識を高めることができた。
ウ 国際交流、国際理解教育を推進します。また、外国語教育（外国語活動・外国語科）について、効果的な指導方法の検証を進めます。		○外国語教育（外国語活動・外国語科）の充実 ・多気町外国語教育担当者会 ・多気町小中外国語教育研究会（多気中、津田小） ○姉妹校との国際交流 ・台湾金華中学校生徒来日 ・キャマス市へ生徒派遣	・A L Tを活用し、英語科や外国語活動の充実や国際理解の取組の推進を図ることができた。 ・外国語教育に関わって小中学校を接続するうえでの重点項目を共有することができた。
エ G I G Aスクール構想の実現に向けて、I C Tを効果的に活用する学習を推進します。		○ I C T 支援員と連携した授業づくり ・ I C T 機器の積極的活用 ・個別最適化の学びの提供	・一人一台端末を効果的に活用することができるよう研修を重ね、各教科等で実践することができた。 ・不登校児童生徒ややむを得ず欠席している児童生徒に対して、Google Meet を活用した

		○ GIGAスクール構想担当者会の開催	同時双方向型オンライン授業提供を行うなど一人一台端末を有効に活用することができた。 ・ 町 GIGA スクール担当者会の中でも、各校で取り組まれている実践交流の機会を持ち、より効果的な利用について考えることができた。
<改善課題> ・ 様々な思いを抱え、集団での学びに困難を抱えながら生活する児童生徒の選択肢の一つとしても、学びの継続、学びを止めない体制づくりが今後必要である。そのために、全職員が双方向型遠隔授業スキルを獲得していきたい。特に統合をひかえる小学校については、各校児童の交流の機会も必要となってくることから、このスキルを活用して授業の幅も広げていく。			

(3) 一人ひとりの特性を生かした教育の推進

項 目	到達度	取組内容	結 果
① 一人ひとりに応じた指導・支援の充実			
ア 安心して学べる授業づくりや子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援が行える体制づくりを進めます。	4	○教育相談体制の確立 ・個人面談機関の設定 ・生活アンケート、QU 調査 ○困り感のある児童への学習支援 ・個別の指導計画、教育支援計画の作成 ○保護者、関係機関との連携、ケース会議（SC、SSW、児童相談所、医療機関等との連携強化）	・個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心に支援の在り方について、全教職員で共有し、共通理解のもと実践を進めることができた。 ・加配教員や学校支援員の効果的な配置に努めるとともに、学校においては支援を要する児童生徒の個別の教育的ニーズに応じた教育活動を展開することができた。
イ 子育て総合支援室との連携を深め、途切れない一貫した支援体制の充実を図ります。		○関係機関との連携 ・子育て支援室の定期的訪問・懇談 ・あゆみ特別支援による支援訪問・懇談 ・その他外部関係機関との連携（松阪市教育支援センター、子ども課、町内保育園等） ○パーソナルファイルの活用	・子育て総合支援室をはじめ、こども課、町内保育園等とも連携し、途切れない一貫した支援体制の充実に努めた。子育て総合支援室やこども課からは幼児期以降の児童生徒の様子や養育状況を把握したうえで、継続的に指導・助言をいただけるので、組織的な支援体制の構築につなぐことができた。
＜改善課題＞ ・集団になじめない児童生徒が増加傾向にあることから、今まで以上に日々の授業づくりも含め、誰もが楽しいと感じられるよう、子どもと子ども・子どもと教師・教師と教師が繋がりあえる仲間づくりに力を入れていく。同時に教育相談を随時実施し、児童生徒の心のケアに努める。また、QU やアンケートを活用し、些細な部分も見逃さず、迅速な対応ができるよう体制づくりに取組んでいく。教職員については、風通しの良い職場の雰囲気心を掛ける。また、不登校児童生徒への支援について、関係機関と連携を図り、学力保障にも繋がるような取組を進めていく。			

(4) 安全で安心して学べる教育の場づくり

項 目	到達度	取組内容	結 果
① 子どもたちの安全安心の確保			
ア いじめを許さない学校づくりに努めるとともに、いじめ防止基本方針（町・学校）に基づき、いじめ防止に取り組めます。	3	○いじめを許さない学校づくり ・いじめ未然防止の取組 ・いじめアンケートの実施 ・中学校区フォーラム活動	・日ごろから児童の観察、指導をきめ細かく行っていた。問題が起こった場合、全職員で共有し解決に向けて取り組んだ。
イ 校内危機管理体制の充実に努めます。		○避難訓練及び引き渡し訓練等の実施 ○エピペン研修の実施 ○「防災ノート」の活用 ○学びの継続、学びを止めない体制づくり（双方向型遠隔授業スキルの獲得）	・危機発生時（火災・地震・土砂災害・食物アレルギー対応等）の行動や指示・連絡系統について全職員に周知・徹底することができた。また実際に訓練やシミュレーション研修を行うことによって改善点を見つけ、より現状に沿った形の危機管理マニュアルとして改訂、見直しを行った。訓練においては、児童生徒が主体的に自分の身を守る力を育むことができるように取り組んだ。
ウ 安全安心な学校施設設備の整備に努めます。		○学校施設設備の点検整備、定期的な安全点検の実施 ○感染症対策の継続	・毎月職員が分担して安全点検を行い、必要に応じて修繕し、安全安心な学校施設設備の整備に努めた。
エ 家庭・地域・行政・関係機関と連携し、通学路等の安全安心の確保に努めます。		○絆ネットの活用 ○通学路の危険箇所の点検	・学校や保護者・地域及び関係機関との連携し、交通安全や不審者等の情報共有を密に行った。

② 学び合い、協力し合う体制づくり

ア 教職員一人ひとりの資質の向上に努めます。		○研修履歴を活用した研修会等への積極的参加 ○コンプライアンスの徹底 ・朝の打ち合わせ ・コンプライアンス研修 ・職員会議等での定期的な点検活動 ○南勢支援事務所、町教委指導主事訪問による指導・助言 ○ミドルリーダーの育成研修実施 ・多気郡課題別研修会（年３回）	・計画的かつ組織的に研究授業を行うとともに、南勢教育支援事務所指導主事を招聘したり、町指導主事を派遣したりして授業研究を行うなどし、全体の授業力向上に取り組んだ。また、日常の管理職の授業観察と助言や授業公開などにより、実践的な指導も行われた。普段から互いに授業を見せ合うなど、OJT の仕組みがうまく機能した。
イ 保・小・中の交流を深め、連携できる体制づくりに取り組みます。	4	○小中連携教育の推進 ・小中情報交換会 ・学力向上推進委員会 ・GIGA スクール構想担当者会 ・外国語教育担当者会 ・小中外国語教育授業研究会 ・相互授業参観交流 ＜勢和中校区＞ ○保小連携教育の推進 ・保育参観、授業参観 ・小中合同研修会 ・引継ぎ会	・小学校教職員が保育園を訪問し、保育の様子を実際に見たり、保育園や保護者と面談して状況や要望を聞いたりなどして、次年度入学する児童がスムーズに小学校生活になじめるように、連携を密にすることができた。 ・3月下旬に小学校6年担任が中学校を訪問し、中学校教職員と新入生等に関する情報交換会を行う予定である。 ・（勢和小中）校区 CS を立ち上げ、3部会において積極的に交流の機会を持ち、小中間での連携体制づくりを進めることができた。
ウ 多気町教育委員会研究指定校による研究を推進します。		○勢和中中学校授業研究会の開催（11月20日）	・勢和中中学校において、研究発表会を行った。授業研究会参観後、それぞれの学校にて研修会を開き、自校での授業改善の取り組みにつなげることができた。
エ 教職員の総勤務時間の縮減を図ります。		○労働環境づくり ・時間外労働時間の縮減 ・定時退校日の設定 ・部活動休養日の設定 ・会議の効率化 ・SSS の配置 ・クラウド、共有フォルダ活用 ○教科担任制の導入	・県の統一項目に向けた取り組み（定時退校日の設定・部活動休養日の設定・会議スマートルール）や学校行事の見直し、SSS の配置などを通し、勤務時間の縮減を進めることができた。時間外労働時間が月 45 時間を超える教職員も確実に少なくなっている。

<改善課題>

- ・時間外労働や年休等の取得については、かなり改善されてきているものの、学校間での格差がみられる。また、育児短時間勤務、育児部分休業等様々な働き方が広がる一方で、学校の核となるミドルリーダー層に負担が偏る傾向も大きな課題となっている。教員の働き方改革を実践していくためにも、適正な教職員の配置を県教育委員会に強く働きかけていく。
- ・部活動ガイドラインに沿って活動をしているが、まだまだ教員の負担は大きい。それに加え、夏場の気温上昇に伴い、生徒の健康面を最優先することにも必要になってきた。地域移行に向けて、来年度早々に協議会を立ち上げ、人材確保等についても協議を進めていく。

(5) 地域との協働と信頼される学校づくり

項 目	到達度	取組内容	結 果
① 地域とともにある学校づくり			
ア 目指す学校像を明らかにし、信頼される学校づくりに努めます。	}	○学校マネジメントシートの活用 ○学校運営協議会の実施 ○家庭・地域への情報発信 ・学校だより、学級だより、HP ・授業参観、祖父母教室、学習発表会等	・年度当初に「目指す学校像」を全教職員で確認し、具体的な行動計画の検討を行った。学校の方針については PTA の会議や学校便り等で保護者・地域住民に伝え、保護者、地域、学校が連携し取り組みを進めた。
イ 地域に根ざした特色ある学校づくりを行います。		○コミュニティ・スクール全校導入 ・CS の組織体制の確立 ・地域学習・体験の展開	・特色を生かした地域講師を招いての農業体験学習、自然体験、地域学習等を行うことができた。地域の講師に生の声を聞くことで、地域を知り、地域から学ぶ学習を発達段階に応じて進めることができた。
ウ 学校評価や学校運営協議会制度を活用し、開かれた学校づくりを進めます。		○学校評価の実施 ・子ども、保護者アンケート ○学校運営協議会の開催	・子ども、保護者アンケートを実施し、その結果を学校だよりで公表している。また、学校運営協議会を開催し、地域の人々の意見を学校運営に生かすことができた。

<改善課題>

- ・地域との協働については、各校にて、地域の資源を生かした行事や学習活動が展開することができている。地域の教育力は高く、学校へも大変協力的である。今後も、各校の「学校運営協議会」を核に、それぞれの学校において、地域の人々をつなぎ、組織的に機能させていくことが大切である。

(6) 小学校統合について

項 目	到達度	取組内容	結 果
① 多気地域小学校統合に向けて、地域住民、学校関係者等への説明、協議を行い、統合小学校建設への合意形成を図っていきます。	4	○多気地域各学校長、地域住民代表、保護者代表、教育委員などで構成された「多気地域小学校統合準備委員会」を設置する。委員会の中で、統合の進め方と新たな学校づくりについて、協議する。 ○学校区単位で地域住民への説明会を実施する。	・令和 6 年 5 月に「多気地域小学校統合準備委員会」を設置した。準備委員会の中に、4 つの部会（建設検討部会、地域検討部会、運営検討部会、総務部会）を置き、協議、検討した。建設検討部会は、統合小学校建設基本構想・計画を策定するにあたり、新しい学校施設について協議、検討し、基本構想・計画に反映した。地域、運営検討部会は合同で 3 校先行統合について協議した。準備委員会は、合同部会の協議結果を踏まえて、令和 10 年 4 月に 3 校先行統合をする案を全員賛成で承認した。総務部会については、本年度は未開催であったが、来年度以降、3 校先行統合に向けて、関連する内容の協議を進める。
② 多気地域小学校統合基本構想・基本計画を策定します。		○令和 5 年度に契約、繰越している「多気地域統合小学校建設基本構想・基本計画策定業務委託」を完了する。このために、多気地域小学校統合準備委員会で、新しい学校施設について協議、検討する。	・多気地域 4 校区で、各 2 回説明会を実施し、小学校統合全般、基本構想・計画について説明し、意見交換ができた。
③ 統合小学校整備に向けて、事業用地の確保等、環境整備を進めます。		○用地取得のため、土地鑑定、用地補償調査を行い、税務署協議にて収用法適用を受けたのち、各地権者と交渉し、用地売買契約及び補償契約を締結する。	・全ての地権者と交渉し、必要な事業用地を取得できた。
＜来年度事業目標＞			
・敷地造成に向けて、設計業務の発注。造成に関係する機関との協議や連携を行う。 ・多気地域小学校統合準備委員会及び 4 部会を運営し、3 校先行統合を主とした協議・検討を進める。 ・令和 9 年度の校舎建設等の設計及び工事発注に向けて、民間活力導入可能性調査及び事業者公募・選定を進める。			

2. 社会教育の推進

(1) 社会教育活動の充実

項 目	到達度	成果と課題
①偏見と差別のないまちづくりの実現に努めます。	3	【成果】本年度は「子どもの人権」「だれもが住みやすい地域とは」を学ぶことを基軸として活動した。第1回リーダー研修会では町人推協委員を対象に「人権が尊重される町づくりを推進するために」の講演会を実施。第2回リーダー研修会の「こどもまんなか社会を目指して」の講演会については、「広報たき」で周知するとともにチラシを作成し学校を通じて保護者に配付したが、一般の参加者は増加しなかった。現地学習会では、子どもの人権と意図のない差別について学んだ。町人推協委員や人権審議会委員、中学校区人権フォーラム実行委員(児童生徒)と引率教員が参加し認識をアップデートした。 図書館との共催事業では町等の食材や景観及び建築物のすばらしさを学び、保幼小中懇談会では「聴く力を育むには」と「仲間づくり」をテーマに校区の人権擁護委員や主任児童委員と教員で参観後協議して、人権教育の根底にある自尊感情を育む視点で活動した。 町民の意識を高め啓発に取り組むため、人権ポスター展を開催し、2中学校区のフォーラム全体会を後援、そして、年度末には人権広報誌を配付することができた。 【課題】差別を解消し人権が尊重される町としていくため、児童・生徒及び教職員を含めた町民に、情報や学習機会の提供を図り、講演会への参加者を増やす工夫が必要である。 人権広報誌作成費、現地学習会バス代が高騰しているため事業の実施方法を見直したい。
②子ども一人ひとりの育ちのために子育て文化を関係機関と連携し構築します。	3	【成果】今年度は、他団体と協力しながら全ての活動を行うことができた。5年ぶりに開催された夏休み体験活動には、小学生31名が参加し、水遊びや鮎つかみ体験などふだんできないような体験を色々することができた。また、本年度から子どもたちの参加がほとんどなかった多気カルタを歩くにかわって星を観る会を多気郡教育会館とともに主催し、68名の子ども達や保護者が望遠鏡を使って惑星や恒星を観察することができた。さらに、「新春凧揚げ大会」には、47名の園児・児童が参加し、凧作りと凧揚げを楽しむことができた。「少年の主張」では、町内の各小中学校から、「日ごろ感じていることや考えていること」の作文を募集し、7作品を「広報誌はぐくむ」に掲載し、町内各戸に配布した。 【課題】たくさんの方が参加できるように呼びかけを行い、地域住民、保護者、関係機関が課題を共有し、子ども一人ひとりの育ちのために何をするのが良いのかを常に考えていく必要がある。

③公民館事業のさらなる充実を図ります。	3	【成果】 くすのき・ささゆり学園講座に関する意見交換会を各教室の代表者に集まっていただき、講座の活性化に対する意見交換を行った。また、受講生全員に新しい講座に関するアンケートを実施し、次年度講座の企画に反映することができた。 【課題】公民館講座受講生の高齢化と固定化もあり利用者が減っている、魅力的な講座を企画し受講生を増やしていきたい。
④魅力ある図書館づくりを目指します。		
ア 町民が安心して暮らすための心の拠り所となる図書館を目指します。	3	【成果】これまでの各館行事を精査しつつ、社協との連携講座、町内行事での移動図書館などの事業も実施し、幅広い年代層の方々の心の拠り所としての機能を発揮できた。 【課題】より多くの町民に親しまれるよう 2 館それぞれの地域性を活かして特色を持たせた図書館を運営していく必要がある。そのためにも司書の入れ替わりが激しい中、難しいところもあるが、研修・自己研鑽を繰り返し、資質向上を図っていく。
イ 利用者の生活や地域課題に役立つよう、より良い選書とレファレンスサービスに努めます。	3	【成果】司書の専門的見地から、資料や情報を的確に紹介し、みなさんの課題解決に繋がるよう努めた。 【課題】選書会議を設け、限られた予算の中で、それぞれの図書館の特性に合った必要な書籍の選択をしていく必要がある。またそれぞれの図書館の特性を把握し、図書館運営に取り組んでいく必要がある。
ウ 「第三次多気町子ども読書活動推進計画」を着実に推進し、子どもと本をつなぎます。	3	【成果】多気町出身の写真家・中里和人さんと連携して、料理家高山なおみさんとのおはなし会。中野純さん×中里和人さんスライドトークショーを実施。読書と実体験を結びつける。という観点から、上記のおはなし会の際に「食べたい本」のコーナーを設置し、読書と五感をつなげることを意識し発信した。 【課題】第四次計画の着実な推進と各部署との更なる連携強化が必要である。特に各家庭での読書状況が心配であり、家読（うちどく）の取り組みに力を入れていきたい。

(2) 文化の振興

①生涯学習フェスティバルや文化祭を通し、文化の振興に努めます。	3	【成果】生涯学習フェスティバルの舞台発表と展示部門両方を開催でき、舞台発表団体数に併せて開演時間を調整し、司会進行を相可高校放送部に依頼した。また、相可高校吹奏楽部に出演していただくことができた。勢和公民館文化祭では勢和公民館や勢和東公民館で活動している団体の作品展示、勢和保育園や勢和小学校の作品展示をおこなうことができた。 生涯学習フェスティバル 出展数：236点 出演団体：11団体 勢和地区文化祭 出展数：101点 【課題】生涯学習フェスティバルや地区文化祭において、出展作品が重複している状況であり、生涯学習フェスティバルと地区文化祭の在り方について、検討をしていく必要がある 勢和地区文化祭 作品展示が少なく、来場者も少ない状態であり、来年度以降は会場や展示方法を検討していく必要がある。
②文化会館自主事業を通じて、芸能や芸術に触れる機会を創出します。	4	【成果】今年度は自主事業を4件開催することができた。年度末には劇団白つばき公演が開催されるなど、町民の芸術文化活動の継続を支援することができた。 【課題】芸能芸術に触れる機会を継続して提供するため、自主会館事業を通年開催出来るように、これまで以上に補助事業の活用が課題となっている。
③町民文化会館の施設改修、設備更新をすすめ、安心安全な管理運営に努めます。	3	【成果】町民文化会館の床張替えを行い、これまで以上に明るい雰囲気のある会館とすることができた。舞台管理人を雇用したことにより、舞台運営を的確に行う事ができた。 【課題】T ステージスタッフの高齢化が進み人材不足が深刻となっているため人員確保が課題である。
④郷土の歴史資料等を適切に保存、公開することにより後世への継承に努めます。		
ア 郷土資料館所蔵資料の保存・整理に取り組み、活用の促進を図ります。	4	〈資料整理〉 対象資料：旧佐奈村役場文書、釜田家文書、小原家文書 ボランティアの作業期間：10月15日(火)～11月22日(金) ボランティア18名 館員2名 【成果】ボランティアの協力で旧佐奈村役場文書1,311点の整理が進んだ。期間中、職業体験の中学生がボランティアの方の昔の暮らしについて話を聞く場面もあり、異世代間の交流や生涯学習の良い機会を作ることができた。また、展示準備と並行して新規受入資料約300点の整理をし、企画展に生かすことができた。 【課題】約4万点あるとされる旧佐奈村役場文書の目録は分冊として刊行、成果を公開していくことが望ましい。整理が終わった資料の収蔵スペース確保が課題である。

イ 郷土の歴史や文化をテーマとする企画展を行います。	3	【成果】年3回の企画展を開催し、郷土の歴史や文化への関心、理解を深める機会を作ることができた。ジェンダーの視点から館蔵品を紹介した夏季企画展は、深く切り込んだ内容で新たな気づきが得られたなど、同問題に関心を持つ方や研究者からは高い評価をいただくことができた。 〈企画展〉 ・4月12日(金)～6月16日(日) 新収蔵品展～暮らしと時代の証言者～ 226名 ・7月17日(水)～9月22日(日) 女性たちの歩み～ジェンダー視点でみる館蔵品～ 351名 ・1月15日(水)～3月16日(日) 民具ッドデザインー昔の暮らしに学ぶー 222名(2月17日時点) 【課題】古文書の展示は一般の来館者にとって理解しやすいものとはいえない。説明文を読む必要があるため、生活道具類の展示に比べると、敬遠される傾向がある。少しでも親しみをもってもらえるような工夫をする必要がある。
ウ 郷土史に関連する講演や「たきカルタを歩く」を開催します。	3	【成果】「たきカルタを歩く」の参加者のうち14名が9月の講演会にも参加しており、座学と実地体験の組み合わせが効果的であった、 9月7日(土) 講演「中央構造線～発生・現在・未来～」 講師：津村善博氏(三重県総合博物館学芸員 参加者：98名 11月23日(土) 郷土史研究会と共催「ひかり拓本講習会」 講師：上梶英之氏(奈良文化財研究所研究員) 参加者：15名 12月14日(土)「たきカルタを歩く第6回 丹生露頭&水銀鉱跡」 館員が案内、解説を行った。 参加者：20名 【課題】料館単独開催のため、参加人数規模に応じたスタッフの確保が課題である。定員到達後、申込を断わらざるを得ないことが多く、1年に複数回開催する等、参加機会の拡大を望む声もあったが、企画展をしながら行うのは難しい。
⑤女鬼峠の国史跡指定を目標に調査・測量を進めます。	3	【成果】今年度は昨年度に引き続き峠道の測量調査を行い、県教育委員会と合同で現地調査を実施し、史跡指定候補の範囲を確定することができた。 【課題】史跡指定後の世界遺産追加登録に向け、熊野参詣道伊勢路関係市町との連携、協力を図り、地域全体の気運を高めていく必要がある。

(3) 国際交流の推進

①キャマス市および金華国民中学校の中学生との相互交流を推進し、国際感覚豊かな人材の育成に努めます。	3	【成果】今年度、台湾金華国民中学校が来日、キャマス市の中学校に20名の中学生派遣団を送ることができた。キャマス市とは4年振りの直接交流により、両国と親交を深める事が出来た。 【課題】キャマス市や台湾との国際交流担当者との連携や、情報収集が難しい。台湾来日の際に、人数が増えたりしたので、もう少しうまく連携がとれるようにしたい。来年度10月に中学生派遣団が台湾での直接交流を予定しており、これを機に更に親交を深めたい。キャマス市からの派遣団受け入れは来年度6月に予定しているので、受入れ体制を整える必要がある。
②国際交流協会の実施するイベントを支援します。	3	【成果】コロナの影響で開講していなかった日本語教室を、新たに「日本語でつながる交流会」という名で再開することができた。日本語の勉強だけでなく、日本での生活の相談や、日本語でのおしゃべりを楽しんでもらう場をつくることを目標としている。今年度は5回ほど開催したが、徐々に外国の人も増えて、いい雰囲気交流できている。ジェイミーの英語カフェについては、初回から大好評で、次回のクラスもすでに定員に達している。 【課題】英語圏の外国人だけでなく、様々な国の外国の方たちに参加してもらえるようにしたい。周知の仕方をさらに考えていく必要がある。また、日本人スタッフに関しても、既存の会員の維持とともに、協会を周知し、新規会員を増やすことが必要である。

(4) スポーツの振興

①誰もが楽しめるスポーツの普及振興に努めます。		
ア 生涯にわたって地域でスポーツに親しむことが出来るように、多気町スポーツ協会と連携し、地域スポーツ団体の活動を支援します。	3	【成果】多気町スポーツ協会主催のジョギング大会を町外参加者も募って開催し、より多くの方にスポーツの楽しさを広め、交流の場を設けることができた。 【課題】全世代が楽しめるスポーツとして、グランドゴルフの普及に努めているが指導者不足と啓発不足で成果が出ていない。一部地区スポーツ協会において大会の開催を行っているので、継続できるよう支援が必要である。
イ 体育施設開放事業を推進し、より多く町民が施設を利用できるように努めます。	3	【成果】町民に手軽で身近なスポーツ活動の場を提供し、生涯スポーツの推進と地域のコミュニティづくりの促進、体力向上と健康増進に寄与できた。 学校体育施設や社会体育施設の利用を促すことで、施設の特性に合わせた競技団体の利用につながった。 【課題】施設利用者が固定的で、競技によって利用できる学校体育施設が異なるため、学校体育施設や社会体育施設の両方の活用を促しながら、適切な施設利用に取り組んでいく。
②総合型スポーツクラブの育成に努めます。		
ア スポーツ協会が行うスポーツ教室、イベント等を支援します。	4	【成果】5回の町内ウォーキングや、心配蘇生セミナー、ピクブルボール体験会、ジョギング大会、ビーチボール大会、ボウリング大会などの催しを開催するとともに、毎週水曜夜間に体育館にてナイトウォークを継続開催し、多くの方に参加して頂き、町民の皆さんの健康増進に寄与できた。 【課題】誰もが参加しやすいイベントや大会の開催を検討していく。
イ 休日の中学生のクラブ活動の受け皿となる仕組みづくりをスポーツ協会と進めます。	2	【成果】休日部活動の地域移行へ向けて第1回多気町中学校部活動検討委員会を開催し、情報共有を行った。 【課題】各スポーツ団体指導者と各中学校部活動顧問との連携を支援し、部活動生徒にとってより良い指導環境を提供できるように検討する必要がある。

※到達度

- 5 目標を大きく上回る
- 4 目標を上回る
- 3 目標どおり
- 2 目標を下回る
- 1 目標を大きく下回る